

獄 中 記

<福 山 辰 夫>

第 十 四 回

皇紀 2654 年【平成 6 年・西暦 1994 年】

10 月 4 日（火）

終日、「ミシン縫製」に従事し、無事 1 日を終えて還房する。夕点検・夕餉後の 17 時 30 分から 18 時迄、宗教教誨『神道』に出席。本日の教誨師は「大内先生」で、講話内容は『明治天皇御製』2 首。先生が予めコピーした用紙を各人に配り、それを詠じて考察する。

わが国は神のすゑなり神まつる昔のてぶりわするなよゆめ

上記、御製下の句（*しものく）では「わするなよゆめ」と詠っているが、此処でいう「ゆめ」とは、「絶対」という意であるから「ゆめゆめ忘れてはいけませんよ」と言っているのである。

おごそかにたもぎらめや神代よりうけつぎきたるうらやすのくに

此の、御製下の句では「うらやすのくに」と詠っているが、これは「浦安の国」。つまり「津々浦々安（たい）らけく」であり、「平和・平安」といった意。それは、「常に奉仕の心を持った敬神生活」を送ることが大切だということ。諺にも、「世のため人の為に奉仕し、情けは人の為ならず」とあるではないか。

10 月 10 日（月） 体育の日

この 3 連休は筆を執り、只管「臨地」に勤しむ。ただ、残念でならないのは、昨日の夕方に K さん（宮城県柴田町住人）と S さんが舎房内で喧嘩。それも初めは単なる口論だったが、S さんの一寸した物言いに K さんがキレ、食事用大机の角で S さん顔面を殴打。それも、右目下に当たって見る見るうちに腫れ上がり、同房

の皆で両者を抑えて何事も無かった様に平生を装い、昨晚は何とか凌ぐ。

然れども、今朝の点検時に長谷川看守長がSさんの右目の腫れに気付き、指摘されSさんも彼是と誤魔化すが、Kさんも自分がやったと認めた事で、当事者2人は「取調べ・入独」。当然乍ら、舎房内で起きた喧嘩事犯故、全員が処遇部門に連行され「事情聴取」を受ける羽目になる。そこで、小生を聴取した古株の青木矯正処遇官に尋ねると、今回の件は大机で殴打した事と、Sさんの右目の腫れも酷い為、「最悪Kは、事件送致になるかも知れないなあ」と呟いていた。一瞬の出来事だったとはいえ、同囚として阻止出来なかった後味の悪さだけが心に残る。

※本日で『夏期処遇』が終了。午後1時から3時迄の「横臥しての午睡」を中止。

工場用と舎房用の「夏物衣類」を一斉に引き上げる。

10月14日(金)

9月分の賞与金教示有り。「8等工」=1,079円也。

10月15日(土)

免業日。午前10時から11時30分迄、慰問演芸『さくらと一郎ショー』が催される。年に一度の「橘プロダクション」による慰問で、赤石茂(住吉会親和会光京一家大泉地区貸元)親方に入ったもの。司会は「藤則江さん」で、生バンドが「池田進&グリーンアイズ」。尚、同プロダクションの女社長・橘ますみ氏も元歌手であり、毎度恒例となる「群馬県邑楽郡大泉町」に関する話題で、司会の藤則江さんとの掛け合いトークがこれまた絶妙。午後は、心静かに墨を摺り「臨池」に勤しむ。夜はテレビ視聴を行い、21時に就寝。

10月20日(木) 皇后陛下御誕生日

昨年今日は、新右翼の教祖的存在であった野村秋介翁が、『朝日新聞東京本社』の役員応接室で中江利忠社長(当時)ら経営陣に対して謝罪を要求。話し合い後に「皇尊弥栄」と三唱し、2丁拳銃を胸に当てて銃弾3発で心臓を貫き自決。娑婆では一年忌の追悼式典を催し、今日を『群青忌』と命名する。

人生の殆どを民族運動に捧げて獄中18年。自らがその著書でいうところの「肉体言語」を以てして、その体現者となる。その野村翁が命を賭して迄、民族派陣営に言いたかったのは、「己の死所を常に定めて生きよ…」という事だったのではないかと忖度する。

10月22日(土)

午前中は、雑居房前の廊下にて「刈り」を実施。

午後の余暇時間は、「臨池」に勤しむ。今月分の「漢字規定競書作品」(半紙)を揮毫し、提出用として1点を選ぶ。

10月24日(月)

工場担当を通して、圖南書道会へと出品する「漢字規定競書作品」(半紙)1点を教育課宛に提出。

10月27日(木)

昼餉後、教育課職員の迎え有り。12時30分から13時30分迄、『書道教室(1班)』に出席。此処の所、暫く体調不良にて休養をしていた、講師の「圖南書道會理事・鈴木登郁先生」が約半年振りに来所し、和気藹藹と指導を受ける。

亦、この度は『平成6年度後期学習生・私費通信教育講座「圖南書道」』に切り替わった事から、改めて班の編成替えが行われた次第。今回の面子は、13工で同房だったSさん(無期囚・秋田出身)、6工のT.M(懲役16年・殺人)、W.H(懲役12年・殺人未遂、銃刀法違反、火薬取締法違反)と知った顔が多い。

そもそも八王子のT.Mは、娑婆からの知り合いにて、平成2年2月15日未明に起こった『八王子抗争』の主犯。もう一人のW.Hは、平成4年3月20日に栃木県足利市の『足利市民会館大ホール』で、地元の「山岡賢次参院議員」(当時)への応援演説を終えた直後、演台を降りようとした「金丸信自民党副総裁」(当時)に向かって拳銃を発砲した右翼団体構成員。然し、歴戦の強者(つわもの)が、各工場にゴロゴロしているのがLB宮城刑務所である。

10月28日(金)

昼餉後、『平成6年度後期学習生』で申し込み、受講許可になった『古城漢字』(*テスト実施場所は、1舎3階の教誨室)に出席。テスト範囲は、小学校1年～中学校3年迄の「常用漢字」より出題され、初回の今日は「20級」(*漢字の読み書き20問で、各級毎に合格ラインが定められている)を受ける。

採点は教育課担当職員が行い、後日工場担当経由で答案用紙が返却され、そこで「合格」であれば1つ上の級へ進級。順調に行っても最低20カ月を要し、最後の「1級テスト」は出題40問中、36問以上正解をしないと合格・卒業にならない。ただ、卒業したからといって『漢字検定資格』を取得できる訳でもなく、教

育課より『古城漢字』を修了したという「修了証書」が交付され、ボールペン又はノートの内、いずれか希望する1点を「修了粗品」として貰える。

余談乍ら何故、今回小生が『古城漢字』を申し込んだか…。

それは、数カ月前の事、前工場で同房だったM・K（懲役12年・殺人／鹿児島県出身。※出所後に『マブチモーター社長宅殺人放火事件』他、2件の強盗殺人、放火等で死刑判決）より「福山さんも、まだ残刑期があるのだから、暇つぶしに顔を出して下さい」とのハト（*伝言）が飛んできたからで、12工はN・Y（無期と懲役13年・山形県出身）。13工からは、前述のM・K、O・Aさん（懲役12年・殺人／水戸抗争・住吉会系）、Aさん（懲役10年・殺人／高崎市住人・五代目山口組三代目山健組系）、I・Hさん（懲役11年・殺人／宇都宮市住人・稲川会系）と懐かしい顔が見受けられる。

還房後、工場定期私本配布日にて自弁購入の週刊誌1冊と、領置下付本として『運命を創る - 人間学講話』（安岡正篤著・プレジデント社）、『運命を開く - 人間学講話』（安岡正篤著・プレジデント社）、『四体細字 - 七言二句帖〈春〉』（大槻豊葉書・図南書道会出版部発行）、『四体細字 - 七言二句帖〈夏秋〉』（大槻豊葉書・図南書道会出版部発行）の4冊が手元に届く。

尚、書道教本2冊は圖南書道會前会長である、故大槻豊葉先生の細字作品集也。

10月30日（日） 教育勅語発布記念日

日中は「臨地」に勤しみ、夜はテレビ視聴を行う。20時から同45分迄、NHK大河ドラマ「花の乱」（日野富子の生涯）を視聴。就寝。

10月31日（月）

本日付で、処遇の一部変更。『冬期処遇』となり、工場と舎房に「チョッキ」（各1点）、「メリヤス（上下）」（私物・各2点）、「冬靴下」（私物・各2点）。舎房に「掛け毛布」（1点）、「敷毛布」（1点）が支給・交付される。愈々、『杜の都・仙台』にも冬到来也。夜の仮就寝では、早速「敷毛布」を使用する。

11月1日（火） 自衛隊記念日

昼の休憩時、工場の食卓で隣に座る『北見抗争』で、懲役15年のジギリを賭けてきた小野寺勝則氏と語らう。

11月3日(木) 文化の日

午前中は、筆を執り「臨地」に勤しむ。亦、昼餉時には祝日菜の給与有り。

午後13時から14時30分迄、総集行事『杉良太郎1日所長』という事で、講演会が催される。講演内容は、杉良太郎が幼少の頃～俳優・歌手となる現在迄を語り、残りの人生を刑務所から出所した者に更生への手助けを、ボランティア活動の一環として行っていくという決意を表明。

その第一弾が、今回の1日所長の要請を「天命と心得」受令し、此処「宮城刑務所」をスタート地点として、今後10年間で全国に在る刑務所を1日所長となって巡るというもの。杉良の妻で、演歌歌手の五代夏子も終盤で登場し、夫のこの活動を妻として全力で支えていくと言う。単なる偽善者気取りではないだろうが、夫妻の思いとは別に、LB宮城刑務所を務める受刑者で「更生意欲」のある者は少ないだろう。最後はカラオケだったが、新曲を含む3曲を歌い講演終了。

舎房に戻ると、喧々囂々と皆で議論する。これから芸人として稼いだ金を、少しでも社会の為に還元して行きたいと公言した、杉良の心意気は買ってやりたい。

11月11日(金)

夕餉後の17時30分から18時30分迄、宗教教誨『神道』に出席する。本日の教誨師は、熱血若手神官である「菅野先生」。講話内容は、「祭政一致」について。

「祭政一致」とは、神道(しんとう)＝政(まつりごと)の事であるが、そもそも神道は教義というものを持たない。但し、神典として『古事記』、『日本書紀』、『延喜式』等があり、その主旨は「自然に生きる」、「お互いを認め合う」という事だという。某右翼団体が「自然と共生」というスローガンを掲げているが、日本人とは古より天地地祇を敬い、自然を畏れて祭祀を行う。そして、母なる大地によって生命(いのち)を授かり、その恵みによって繁栄してきた事を識もの也。

11月12日(土)

免業日にて、午前中は舎房前の廊下にて「刈り」を実施。

午後は夕点検迄、「臨地」に勤しみ、夕餉後の余暇は、『論語』を独学する。

11月15日(火)

10月分の賞与金教示有り。「8等工1割増+1割」=1,304円也。

11月17日（木）

昼餉後、教育課の峯岸処遇官が迎えに来て『書道教室（1班）』に出席。

13工のSさん（無期囚・秋田出身）、6工のT.M（懲役16年・殺人／八王子抗争）、W.H（懲役12年・殺人未遂、銃刀法違反、火薬取締法違反／金丸信副総裁狙撃事件）等と、講師の「鈴木登郁先生」に11月課題の添削指導、12月課題の揮毫指導を受ける。

11月19日（土）

朝餉後、講堂に繰り込みを開始。10時から11時30分迄、慰問演芸『香西かおりショー』が催される。今回は、「新栄プロダクション」による慰問と名目上はなっているが、東京に本部を置くK会のK会長が「山谷騒動」でジギリを賭けた、同会系K一家のH.Tさんに入ったもの。

開演と同時に、歌手であり同プロダクションの社長・山田太郎が挨拶。そして、ショーの司会も務める。先ずは前座として、今年の各賞レースで新人賞有望株の美山純子を紹介し、『桃と林檎の物語』他、数曲を披露し舞台袖に下がると、本日メインの香西かおりが着物姿で、デビュー曲の『雨酒場』を歌いながら登場。

『流恋草』、『無言坂』（* 今年の「第35回日本レコード大賞」大賞受賞曲）と、数々のヒット曲を歌う。

尚、先月開催された『東北管区被収容者書画コンクール』で、硬筆の部に於いて小生の作品が「金賞」を受賞。そこで開演に先立ち、各部門の入賞者に対する表彰を行うとの事で、看守の誘導で講堂ど真ん中の最前列に座って待機。

「金賞」（書の部・硬筆の部・絵画の部）を受賞した3名が、以下の入賞者を代表して所長より賞状を授与され、特等席で慰問を観るという恩恵を受ける。今、女性演歌歌手として脂が乗る、香西かおりと美山純子を間近に見て、舎房に戻った後も、暫くはその余韻に浸る。

11月23日（水） 勤労感謝の日

午前中は9時30分から11時迄、講堂で『3級会』が催され出席。

「ミルクティー」と「お菓子」2品を喫食しながら、VTRを視聴する。

昼餉時に、祝日菜の給与有り。午後は「臨地」に勤しみ、夕方の余暇では『論語』を独学する。

11月24日(木)

工場に出役し、圖南書道會に提出する『漢字半紙規定』作品を教育課宛に提出する。亦、今日から『処遇の一部変更』となり「工場ストーブ」の使用開始。

11月25日(金) 憂國忌

昼餉後、12時20分から『古城漢字』が1舎3階の教誨室で実施され、19級のテストを受ける。13工の面子も欠ける事無く、元気そうであった。

11月28日(月)

昨夜から寒気がして、起床して直ぐに報知器を点け、舎房看守に体温計を願い出る。出役前に検温すると38度8分もあって、舎房看守が『処遇部門』に問い合わせると、出役をさせず「休養預かり」とするようにとの指示。同囚等が出役をした後、若い看守が迎えに来て4舎1階の独居房に行き、一先ず診察時間迄は布団を敷いて横臥する。10時過ぎ頃、医務分室にて診察を受けると「風邪」との診断で、即入病と告げられる。昼餉を摂り、午後13時過ぎに若い看守に連行され、新築されたばかりの病舎1階の独居房のベッドに横臥して休養に入る。

12月2日(金)

昨日、午後イチの診察で「休養解除」となり、朝後に私物等を纏めて12工場へと戻る。休養期間中、11月28日は独居房だったが、翌29日に雑居房へと転房。

結局、それから誰も入房してくる者も無く、雑居房で独居生活であった。

休養していた30日、病舎地区の『BOOKフェア』が催され、カタログ販売で単行本2冊を購入する。今週は月曜日の朝イチに入病になり、週末の金曜日に工場へ戻った事から、作業では大変迷惑を掛けてしまった。その分来週は、一所懸命にミシンを踏むとする。